

第1学年 道徳学習指導案

令和4年1月21日(金)第5校時

授業者 教諭 ○○ ○○

- 1 主題名 いのちを考える 内容項目 [D-19 生命の尊さ]
- 2 ねらい 悩みながらも自分の骨髄を提供した田中さんの姿から、人が互いに支え合って生きていくことの大切さを理解し、自他の生命を尊重しようとする態度を育てる。

教材名 「決断！骨髄バンク移植第一号」（出典 「新しい道徳1」 東京書籍）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

いのちはかけがえのないものであり、その重さは誰でも等しく、平等なものである。一度失われてしまうと、二度と戻ることはなく、また、決して何かで代えることはできない。そのため、いのちは何よりも大切にしなければならないものであるが、中学生が身近な人の死に接したり、人のいのちの有限性やその重みを実感したりする機会は少ない。本学習では、家族でもない赤の他人同士である登場人物たちが支え合って生きている姿をとおして、自他の命を尊重しようとする態度を育てることをねらいとしている。また、自らもまた多くの人の“いのち”に生かされていることに気づかせ、感謝の念を持ち、互いに支えあって生きていくことが「いのち」を尊ぶことに繋がっていることを理解できるようにする。

(2) 生徒のこれまでの学習状況及び実態について

「いのち」については、小学校第1・2学年で「生きることを喜び、生命を大切にする」、第3・4学年で「生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする」、第5・6学年で「生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する」という指導内容のもと学習をしてきている。また、本学級の生徒は、9月に資料『いのちを考える—あなたはひかり—』で、自己のいのちの尊厳について考える学習をすでに行っている。自他のいのちを尊ぶためには、まず自己のいのちの大切さを理解する必要がある、自分が生きていることの有難さに思いを寄せることで、自己以外のいのちも同様に大切にしていけることができる。本授業では、その授業から発展させ、互いに支え合って生きていくことについて考えることで、自己以外のいのちの尊重に繋げている。

これまでの学習により、生徒はいのちがかけがえのないものであり、何より大切にしないとイケないものであることは頭では理解している。しかし、その実感が伴わず、ただ漠然といやなことから逃げたいときに「死にたい」とつぶやいたり、「自分なんかどうなってもいい」と投げやりな態度を取ったり、友達とのふざけ合いの中で「きもい」といった発言があったりする。また、自分のいのちは自分だけのものであるという感覚を持つ生徒が少なくない。そこで、本授業をとおして、いのちの有限性に実感を持ち、生命の尊厳に気づけるようにすること、生命あるものは互いに支え合って生き、生かされていることに感謝の念を持つように指導する必要がある。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、テレビ番組「プロジェクトX」を資料化したものであり、日本で初めて骨髄移植手術を行った、白血病患者の橋本さんとそのドナーである田中さんの実話である。骨髄バンクに登録していた田中さんは、骨髄のHLA型が適合する患者がいるという連絡を受け、「骨髄を提供します」とすぐに返事をするが、過ごしていくうちに不安や迷いが生じ始める。恐怖と使命感の葛藤を乗り越え、田中さんは提供する決断をし、無事手術は成功する。日本人初の骨髄移植成功者としての経験を活かし、骨髄バンクの啓発活動を行っていた橋本さんは田中さんと偶然、講演会で出会い、握手を交わし抱き合った。ドナーである田中さんの心の揺れに迫る

ことで、自他のいのちを大切にすることへの率直な意見や価値観を出し合う事ができる教材である。

本教材は、田中さんの心の揺れだけではなく、田中さんの家族や橋本さんの心情についても話し合うことで、多角的・多面的な視点から問題を捉えられると考える。また、自他の生命の尊重について、それぞれの立場ならではの価値観で迫ることができる。最後はそれを共有し、最終的な決断を自分で下す。いのちは繋がっており、人のいのちを尊重することの大切さを感じとっていただければ、それを踏まえたうえで、提供しないという判断を下すこともまた間違いではない。生徒の多様な考えを受け入れ、否定しないように注意する。また、最後はふたりが抱き合った理由を問うことで、橋本さんだけではなく、田中さんも喜びや幸せを感じており、家族以外でもいのちが繋がっていることに気づけるようにする。

(4) 研究仮説に対する授業の工夫

- ① ポスターを掲示し、生徒の興味関心を高め、考えたいと思わせる導入をする。
- ② ポジショントークで、問題に対して多面的・多角的な意見を出せる話し合いをさせる。
- ③ ねらいに迫るための切り替えしの発問の工夫をする。

4 展 開

	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点 評価の視点(☆)
導 入 5 分	<p>1 本時の内容について知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ACのブラックジャックの 広告ポスターを提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>どんなに腕のいい名医でも治せない病気ってなんだろう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 白血病と骨髄移植について説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ がん ・ 白血病 ・ 脳梗塞 ・ 心筋梗塞 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界には、臓器提供がなければ治せず、生きることができない病気があることを知る。 ・ 本時の内容を考えるのに必要な情報に留める。
展 開	<p>2 資料をパワーポイントで提示。状況を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>3 みんなが田中さんの立場であったら、骨髄を提供しますか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2, 3人に発表してもらう 	<p>(提供する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 橋本さんの命を助けたい ・ 自分にできることはしてあげたい <p>(提供しない)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 誰かもわからないし、辛い思いはしたくない ・ 何かあったらと思うと不安。 ・ 自分の命まではかけられない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移植の難しさについて、理解しやすいように説明を加える。 ・ ここでは時間はかけず、漠然とそのときに感じたことを問う。 ・ 日本で初めての手術であり、前例がないことを強調して、双方に不安があることを理解できるようにする。

	<p>6 発表や、二人のその後の姿から改めて考える</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>みんなが田中さんの立場であったら、骨髄を提供しますか。</p> </div> <p>・意見が変わった人、変わらなかった人それぞれから2, 3人に発表させる。</p>	<p>できたことを実感している。また、その人が元気に生きていてくれて嬉しい。</p> <p>(変わった人) 提供しない ⇒ 提供する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他人のためにそこまですることはできないと思ったが、人の意見を聞いて、確かに罪悪感が残ったり、後悔しそうだと思った。 <p>提供する ⇒ 提供しない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族のことを考えていなかった。自分に万が一のことがあったら、家族に申し訳ないと思った。 <p>(変わらない) 提供する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人のいのちは最も優先すべきこと。可能性があるのなら絶対に提供する。 <p>提供しない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のいのちを大切にすることも、重要だと思う。 	<p>支え合っていることに気づかせる。</p> <p>☆それぞれの立場からの意見に耳を傾け、それを踏まえたうえで自分の決断を下そうとしている。</p>
<p>終末</p>	<p>7 感想記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の授業をとおして考えたこと、学んだことを記入する。 ・2, 3名に発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・改めて、いのちの尊さがわかった。これからは、自分だけではなく、他の人のいのちも大切にしていきたい。 ・勇気をだして他人のために提供をした田中さんはすごいと思った。僕も他の人のためにできることはしていきたい。 ・田中さんと橋本さんはお互いに支え合っていて、素晴らしいと思った。 	<p>☆本時を振り返り、自己のこれからの生き方に生かそうとする姿勢が見られる。</p>

5 他の教育活動との関連

<p>事前指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から、地震があったときなどに短学活等でいのちを最も優先に考え、行動することを指導している。 ・1学期の総合で、道徳と関連させていじめについて考え、「いじめゼロ」宣言を行っている。
<p>道徳科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教材名「いのちを考える あなたはひかり」 「一粒のひかり」である自分の大切な「いのち」という自覚のもとに、輝いて生きていこうとする意欲を高めることをねらいに、事前に「自己のいのち」についての授業を行っている。

事後指導	<ul style="list-style-type: none"> ・学級通信等に相田みつをの詩「自分の番 いのちのバトン」を載せ、資料の登場人物だけではなく、自分自身のいのちも、たくさんの人に支えられていて、いのちのバトンを受け取って今ここにいる、ということに関連付けて考えられるようにする。 ・道徳コーナーを活用して生徒から出た感想や考えを掲示することで、生徒が学びをフィードバックできるようにする。
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・学級通信に授業の内容と生徒の感想を載せ、家庭でも話題にし、話し合えるようにする。



6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・それぞれの立場からの意見に耳を傾け、それを踏まえたうえで自分の決断を下そうとしている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・自他のいのちを尊重してこれから生きていこうとする姿勢が見られる。

7 板書計画

決断！骨髄バンク移植第一号

<p style="text-align: center;">白血病</p> <p>血液の癌。骨髄の提供がないと治らない</p>	田中さん	田中さんの家族	橋本さん	<p>なぜ抱き合ったのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いに生きていることが嬉しかった ・命の恩人に会えてうれしい ・感謝の気持ちが溢れた
<p>全身麻酔をすると目が覚めない可能性もある。骨髄移植による死亡事例がある。</p>	1班	4班	7班	
<p>日本で初めての手術で、前例がない。</p>	2班	5班	8班	
	3班	6班	9班	

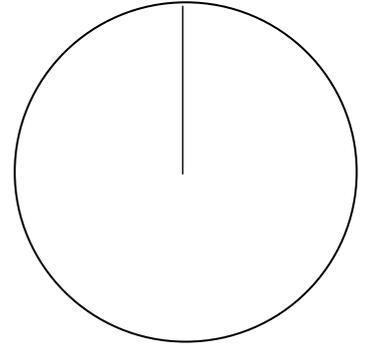
決断！骨髄バンク移植第一号

1年 組 番 名前(_____)

1. もしあなたが田中さんだったら、骨髄を提供しますか。
あなたの気持ちの割合を心情円に表し、理由を書こう。

理由

.....
.....
.....



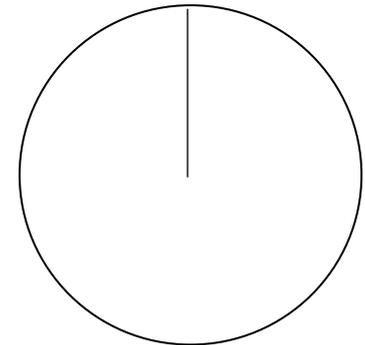
2. 田中さんと橋本さんはなぜ「 _____ 」のだろう。

.....
.....

3. 改めて、もしあなたが田中さんだったら、骨髄を提供しますか。
あなたの気持ちの割合を心情円に表し、気持ちが変わった理由、
もしくは変わらなかった理由を書こう。

理由

.....
.....
.....



4. 今日の授業をとおして考えたこと、学んだことを書こう。

.....
.....
.....

ふり返ってみよう

1 教材について、興味をもって聞けたか？	A B C D
2 自分の考えを伝えることができたか？	A B C D
3 友達の考えを聞くことができたか？	A B C D
4 授業の内容について、深く考えることができたか？	A B C D

A：意欲的にできた B：できた C：あまりできなかった D：できなかった

第2学年 道徳科学習指導案

令和4年1月21日(金)第5校時

授業者 教諭 ○○ ○○

○○ ○○

○○ ○○

- 1 主題名 おおらかな気持ちで 内容項目 [B-9 相互理解、寛容]
- 2 ねらい それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があることを理解し、寛容の心を持って謙虚に他に学び、自らを高めていく態度を育てる。

教材名 「注文をまちがえる料理店」(出典 「新しい道徳2」 東京書籍)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

人間相互の理解は、自分の考えや意見を発信することが一つの鍵になる。様々な物事について、自分の考えや意見を人に伝えることは、人間関係を築き、相互理解を深めるために欠かすことができない。人間は、大抵の物事についてその全体を知り尽くすことは難しく、自分なりの角度や視点から物事を見ることが多い。その中で個性について正しく理解し、他者の考えや立場を尊重し、調和し生活していかなくてはならない。それを理解しつつ、寛容に生きていくための処世の術のように理解していないかを問わなくてはならない。寛容とは、他人の過ちを大目に見たり、見て見ぬふりをするのではなく、相手の立場を理解し考えていくことが人間としての成長に役立つことを理解させたいと考え、本主題を設定した。

指導に当たっては、教材の中だけの話ではなく、ドキュメンタリー(虚構を用いず実際そのままを記録したもの)であることに留意し、現代社会で実際に起こる課題を題材に、話し合いの中で深く考えさせる。その過程の中で社会に出た時の相互理解、寛容について、役割演技などを体験させ、道徳的実践意欲を育てていきたい。また、グループ討議を通して自分の考えだけでは一方向な考え方に過ぎないということに気づかせ、他人の考え方をすることで多面的、多角的に物事を考え、相互理解について考えさせたい。

(2) 生徒のこれまでの学習状況及び実態について

本校では市内小学校2校から入学し、入学後、新型コロナウイルス感染症の対応をしながらの生活を強いられたが、これまでと違った環境、新たな集団の中で1年間を力強く過ごした。2年生になりその集団生活をよりよくしていくために、宿泊学習などの取組を行った。また学年目標「心を想う」を念頭に、ソーシャルスキルトレーニングや構成的グループエンカウンター、人権感覚育成プログラムを活用した人権学習、学級組織を活用した学年の取組など、他者を想える人間関係作りに努めてきた。これらの学習、経験を踏まえ自己と対話させ、多様性を認めそれぞれの個性や立場を尊重し、寛容な心を育てたいと考えている。

本学級の生徒は、1学期に行われたHyper-QUテストの結果で学校生活意欲調査から、友人との関係をみると、18.4ポイントと全国平均を上回っており、2学期の結果では、18.7ポイントと更に0.3ポイント上がっていた。また、学級との関係をみても、1学期は、17.5ポ

イントと全国平均を上回っており、2学期では、17.8ポイントと0.3ポイント上がっていた。このことから、学校生活意欲の高い集団であることが分かる。男女の仲も良く穏やかな生徒が多い集団である。日々の生活で行われている班活動や2学期に行われた行事などを通じて仲間と協力する機会もあり、このような結果につながったのではないかと考える。しかし、「配慮」と「かかわり」の関係を見てみると、「配慮」に関しては、1学期33.6ポイント2学期は33.9ポイントと0.3ポイント上がり全国平均は上回っているが、「かかわり」では、1学期29.4ポイント2学期29.6ポイントと0.2ポイント上がってはいるものの、「配慮」と「かかわりに」のバランス面から見るとやや偏りがみられた。特に、「かかわり」においては、特定の仲の良い友人とのかかわりの中での行動が多く、他の生徒たちとの「かかわり」に温度差がある。今後は、学級全体の生活や活動面で、いろいろな仲間とかかわる場面を設定し、より多くの仲間とのかかわりを広げていけるように、短時間での小グループでの活動などを意図的に取り入れ、認め合い活動などをこまめに取り入れ、周囲との関わり合いの中で他社を理解できる寛容な心を育てていきたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、フリープロデューサーの小国士朗氏が企画立案し、2017年認知症の状態にある方が注文を取ったり、配膳をしたりするホールスタッフをつとめるレストラン「注文をまちがえる料理店」を題材にしている。小国氏のコンセプトとして「間違っただけ料理が出てきてもその場にいる人全員が受け入れてしまえば、間違いじゃなくなるんだ」「間違いを指摘して直すのではなく、受け入れることで間違いをゼロにしてしまう。なんて豊かで優しい風景なんだろう」を目指したという。

この教材を通して、さまざまな物事の見方や考え方があること、おおらかな気持ちで受け入れられることの大切さに気づかせ、どんな意見でも受け止める寛容さを身につけさせるとともに、いろいろな見方や考え方から他から謙虚に学ぼうとする態度を育てたい。

(4) 研究仮説に対する授業の工夫

- ①多面的、多角的な考えを持たせられるような発問を設定し、T2・T3を活用して議論を発展させる。
- ②企画者の出店のコンセプトをグループで議論させ、まとめたものをポスターに表現させ、発表することによって、全体で共有させる。
- ③役割演技でT2・T3を活用し生徒の関心意欲を高める。

教科書の文字を追わせる代わりに「注文をまちがえる料理店」のポスターを掲示し、議論しやすく、授業全体の見通しが持てる展開にする。

4 展 開

	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点 評価の視点(☆)
導 入	1 本時の内容について知る。 【役割演技】 ・店員さんが注文をまちがえた時の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・気分が悪い ・間違える時だってあるから気にしない 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師による役割演技 ・あまり長くならないように留意する。
展 開	<p>2 道徳的な問題について考え、議論する。</p> <p>資料「ポスター」の提示</p> <p>(1)ポスターから、関係者の心情をくみ取る。</p> <p>≪補助発問≫</p> <p>「どのような料理店？」 →実は認知症の方が働いている料理店です。</p> <p>「自分が認知症なら従業員に応募する？」</p> <p>「家族だったら応募に賛成？反対？」</p> <p>「企画した人はどういう考えで始めたのだろうか？」</p> <p>(2)「ポスターのメッセージ」を考える。</p> <p>「このポスターの下には小国さんの想いが込められています。どのようなメッセージにしたのだろうか？」</p> <p>について、班で考え、作成し、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・失敗する料理店 ・ドッキリ企画じゃないか ・恥ずかしいから働きたくない ・チャレンジしてみたい ・家族だったらやらせてあげたい ・恥をかかせたくない ・認知症について知ってほしい ・誰でも働ける場があることを知ってほしい ・おいしい料理が出ます。 ・認知症の人が一生懸命働いています。 ・間違ってもいいと思ってください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・補助発問に時間をかけないように注意する。 ・生徒の反応によっては役割演技の振り返りをしたい。 ・「自分の意見を伝える」「人の意見を聞く」「人の意見を否定しない」など話し合いの約束について確認し、活動を行う。 ☆それぞれの立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方が理解しようとしている。 ・T1～T3が机間指導しながらクロストークの役割を行いながら考えを深めさせる。 ・共通のキーワード等を抽出し、意見の共有をする。

	3 動画を視聴する 本時の授業を振り返って話し合った感想を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・小国さんはすごいと感じた。 ・世界でも広がってほしい。 ・ほっこりした。 	
終末	4 本時のまとめをする。(感想を記入させる) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">「いろんな人が生きている社会で、そのほっこりとした気持ちを實現していくには、どうしていけばいいだろう？」</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい社会を實現させたい ・どんな人でも過ごしやすい世の中にするために自分のことをしていきたい。 ・誰かが失敗しても「ま、いっか」と思える心を持ちたい。 ・〇〇さんの意見を聞いて、私もそう思った。私もそのようにできるようになりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の理解だけに留まらせないように留意する。 ☆本時を振り返り、個性を尊重し、寛容な心をもって過ごしていこうとする態度が見られる。

■動画出典■

【公式】[注文をまちがえる料理店 \(mistakenorders.com\)](https://mistakenorders.com) より

“注文をまちがえる料理店”2018レポートムービー

5 他の教育活動との関連

事前指導	事前学習、Q-Uテスト(2回)の活用
道徳科	<ul style="list-style-type: none"> ・教材名「注文をまちがえる料理店」 向上心、個性の伸長について、進路を素材に自分の将来について、将来の生き方を他人との考えを比較しながら、多面的・多角的に話し合いをすることを通して、自己を見つめ、これからの生活の中で、向上心を持とうとする態度を育てる。
事後指導	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳コーナーを活用し、学年の感想や授業で取り扱えきれなかった事柄について紹介をする。 ・「多様性」「相互理解」に関する新聞記事等を学年廊下で掲示する。 ・朝読書で教科書本文を読ませる。
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・学級通信で、生徒の感想を紹介し、互いの気づきや考えについて広く理解できるようにする。

6 評価の視点

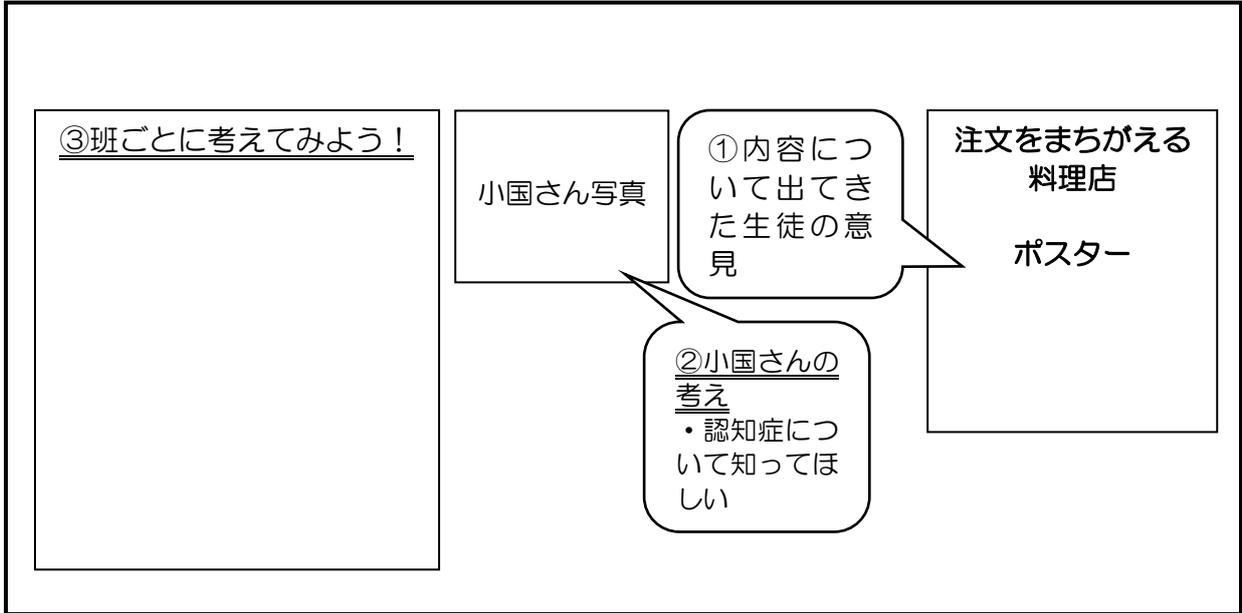
【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・グループ活動を通して、それぞれの立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解しようとしている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・それぞれの個性や立場を尊重し、寛容の心を持って謙虚に他に学ぼうとしている。

7 板書計画



2022年1月 日()
道徳ワークシート

『注文をまちがえる料理店』

2年()組()番名前()



「注文をまちがえるなんて、変なレストランだな」
きっとあなたはそう思うでしょう。

私たちのホールで働く従業員は、
みんな認知症の方々です。
ときどき注文をまちがえるかもしれないことを、
どうかご承知ください。

そのかわり、
どのメニューもここでしか味わえない、
特別においしいものだけをそろえました。

「こっちもおいしそうだし、ま、いっか」
そんなあなたの一言が聞けたら。
そしてそのおおらかな気分が、
日本中に広がることを心から願っています。

【感想】

第3学年 道徳科学習指導案

令和4年1月21日（金）第5校時

授業者 教諭 ○○ ○○

- 1 主題名 次世代の担い手として 内容項目 [C-10 遵法精神、公德心]
- 2 ねらい 登場人物の言動についての話し合いや、登場人物に自分を重ねあわせた役割演技を通して、公共の場での決まりやマナーを守り、お互いが気持ちよく過ごせる社会を築こうとする態度を育てる。

教材名 「缶コーヒー」（出典 「新しい道徳3」 東京書籍）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

遵法精神は公德心によって支えられている。公德心とは、社会生活の中で守るべき正しい道としての公德を大切にする心である。一人一人の日常生活の中で具体的に生かされることで、住みよい社会が実現できる。法やきまりについては、その遵守とともに、一人一人が当事者として関心をもつことが大切である。また、他人の権利を尊重し、自分の権利を正しく主張することで、結果として安定した社会の実現に貢献することになる。

中学生の時期は、法やきまりの大切さは理解していても、その本当の意義にまで考えが及ばず、仕方なく従うことや、自らの欲望を制限するものとして法やきまりを捉えていることがある。また、社会生活においては「暗黙のルールやマナー」といったものも多く存在する。暗黙であるがゆえ、守らなくてもよいという安易な考えに陥りやすかったり、守らない他者に対して当事者意識をもって働きかけられなかったりすることも少なくない。法に触れるものだけを遵守すればよいという他律的な考えでなく、よりよい社会の実現のため、他者の立場や状況をふまえて進んで守ろうとする自律的な実践意欲を育みたい。

指導にあたっては、公共の場でのルールやマナーについて考えさせ、登場人物それぞれがおかれた状況や心情を想像させることで「自分だったらどのように行動するか」について考えを深めていく。公共の場での望ましい言動について考えさせ、お互いが気持ちよく過ごせる社会の実現に向けて、進んで行動しようとする意欲を育みたい。

(2) 生徒のこれまでの学習状況及び実態について

本学級は、10月に実施したQU検査によると「親和的なまとまりのある学級」で「学級内のルールや行動規範が十分に定着していると考えられる」という結果が出た。実際、修学旅行やスポーツフェスティバルといった学校行事では、ルールを守り、意欲的に参加していた。

一方で、日常生活においてはルールやマナーを守ろうと互いに声をかけあう場面が少なく、2分前着席や無言清掃が疎かになっている場面も見受けられる。ルールやマナーが疎かになっても無難にやり過ごそうという意識も感じられることがある。自ら進んでお互いが気持ちよく過ごせる環境づくりに参加しようとする公德心を育てていきたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、通勤時間帯の電車内において、ルールが明確でない状況の中で、登場人物それぞれに何らかの「落ち度」が設けられた教材である。

登場人物は、公共の場でのマナーを守らない「女性」、自分は悪くないのに無難にやりすごそうと謝ってしまう「私」、それらの状況を見ていながら注意できずにいた「竹内さん」である。

「私」の前に座った「女の人」がコーヒーの入った缶をあげ、車内の窓辺に置く。落ちると困ると思った「私」は、年上の「女の人」に対して丁寧に注意をするが、イヤフォンで大音量で音楽を流しているからか反応はない。電車の急ブレーキで缶は倒れ、「私」の制服とノートが汚れてしまう。「女の人」が「私」にひとこと謝り電車を降りた後、「竹内さん」は「私」に対していらだちをぶつける。

学習活動の過程では、以上の場面を用いて役割演技を行うことで、登場人物それぞれの心情や公共の場面での他人に対する声かけの難しさを疑似体験する。役割演技は当事者意識をもって考えさせる手段として取り入れる。展開後半では、タブレットの「発表ノート」機能を用い、「自分がこの場にいたらどうするか」を全体で共有することで、多面的・多角的思考を促し、考えが深まることが期待できる。終末では、よりよい社会を創る一員として、自分に何ができるかを考えさせたい。以上のようなことから、本主題を設定した。

(4) 研究仮説に対する授業の工夫

①多面的・多角的に捉えられる発問と、自己との対話を促す発問を設定する。

「なぜその場で注意できなかったのか」と問うことで、公共の場であるからこそその様々な配慮に気づかせ、どうするのがよいかについて思考を促す。

②「発表ノート」の機能を活用し、大型テレビに生徒の考えを映し出すことで、全体で共有しやすくする。「自分だったらどのようにするか」を提示した状態で「なぜそのように考えるのか」を尋ねることで、行為を支えた思いに注目させ、多面的・多角的思考を促す。

③場面絵の活用と役割演技を通して、興味関心をもたせるとともに当事者意識をもたせる。

4 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	<p>1 公共の場でのきまりやマナーを考える</p> <p>「次の場面でのルールやマナーにはどんなものがありますか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅に向かうバス内 ・駅のエスカレーター ・電車内 <p>「ルールやマナーを守っていない人がいたら、どんな気持ちになりますか？」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大声で話さない ・マナーモードにする ・走らない ・立つときは手すりに掴まる ・飲食をしない 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を提示し、公共の場を想像させる。 ・公共の場での暗黙のルールやマナーを出させることで、自らの生活に関わることで興味をもたせる。

<p>展開</p>	<p>2 教材を読み、道徳的な問題について話し合う</p> <p>(1)状況を確認する 「この状況って誰のどんな所が問題かな？」</p> <p>(2)役割演技を通して登場人物それぞれの心情を考える①</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>缶コーヒーがこぼれて「私」のスカートとノートが汚れてしまったとき、登場人物3人はそれぞれどのような気持ちだったでしょう？</p> </div> <p>(3)考えをワークシートに記入する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>どうして竹内さんはすぐに注意しなかったんだろう？</p> </div> <p>《補助発問》 なんで女性に言わず、私には注意したのだろう？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・女性が飲みかけの缶コーヒーを置いているところ ・イヤフォンを大音量にしていること <p>〔私〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと言えばよかった ・朝から嫌な気持ち ・どうして謝らなきゃいけないの… <p>〔女性〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんとかしなきゃ ・何で今日に限って（焦り） ・女の子に申し訳ない <p>〔竹内さん〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんてマナーのない女性なのかしら ・謝ることなんてないのよ ・注意しようとは思ったけど、言えなかったいら立ち… <p>〔乗客の一人〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もめているな ・女の子かわいそう ・でも巻き込まれたくない <p>い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りの視線が気になる ・おせっかいと思われたくない <ul style="list-style-type: none"> ・どのような言い方をすべきか咄嗟に出てこない ・見ず知らずの女の人に注意しづらい ・自分が何とかしてあげられたかもしれないのに、何もできなかったから ・自分が嫌な人間だと思われたくない 	<ul style="list-style-type: none"> ・女性が公共の場としてふさわしくない行動をしていることをおさえる。 <p>・「私」「女性」「竹内さん」「乗客の一人」の役割演技を通して当事者意識をもたせる。【工夫③】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私と女性のそれぞれの立場で、共感できることはどんなことか、聞く。 <p>・実際の場面を想像させ、公共の場だからこそその配慮、難しさ、公共の場だからこそ陥りやすい考え方に気づかせる。【工夫①】</p>
-----------	---	---	--

	<p>(4)役割演技を通して登場人物それぞれの心情を考える②</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>あなたが竹内さんのように、その場に居合わせた立場だったら、どうしますか？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・竹内さんの立場だったらどうするか、タブレットに自分の考えを入力する。 <p>≪補助発問≫</p> <p>「どうしてそのように行動するの？」</p> <p>「どうしてそのような言い方をするの？」</p>	<p>〔竹内さん〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「缶が落ちそうですよ」と、言う <p>⇒女の人に不快な思いをさせず、行為を改めさせるため</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イヤホンから音が漏れていることをジェスチャーで知らせる <p>⇒周りの迷惑になるような大きな声を出さないため</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな声で女の子に「大丈夫？」と言う <p>⇒例：周りのみんなにも気づいてもらい、女の人にも事の重大さに気づいてもらうため</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性を助ける。一緒にハンカチを出してふいてあげる。 <p>⇒女性に、望ましい行動を促すため。女性も困っているはずだから。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・役割演技を行う際は、「この場が互いにとって心地よい空間になるためにはどうしたらいいか」に目を向けるよう、助言する。 <p>☆役割演技等を通して、公共の場における望ましい行動や言動を考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の意見を大型テレビに映し、全体で共有する。 <p style="text-align: right;">【工夫②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動や言動だけにとらわれず、その行為を支える思いを聞く。 ・竹内さんの言動によって、「私」と「女性」役はどのような気持ちになったか、聴く。
<p>終末</p>	<p>3 本時のまとめをする</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>よりよい社会をつくっていくために、あなたはどうか行動していきますか？</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・知らない人とも社会をつくっていることを自覚して、マナーを守って行動していく。 ・相手の立場や状況を考え、不快になるようなことはしない。 ・言うべきことは伝え方に注意して伝えるべきだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の生き方に生かせるよう、実践意欲をもたせる。 <p>☆互いに気持ちよく過ごせる社会にするにはどうしたらよいか、当事者意識をもって考えている。</p>

5 他の教育活動等との関連

<p>事前指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日ごろから登下校のマナーを中心に、公共の場でのふるまいを指導している。 ・短学活等で、公德心に関わる新聞記事を紹介する。
<p>道徳科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教材「缶コーヒー」 <p>登場人物の言動についての話し合いや、登場人物に自分を重ねあわせた役割演技を通して、公共の場での決まりやマナーを守り、お互いが気持ちよく過ごせる社会を築こうとする態度を育てる。</p>
<p>事後指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年の「道徳コーナー」を活用し、掲示物で互いの考えを共有する。 ・登下校時や地域での過ごし方、学校の日常生活で公德心に関わる場面を取り出し、話題にする。
<p>家庭との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級通信に生徒の感想等を掲載し、家庭でも話題にできるようにする。

6 評価の視点

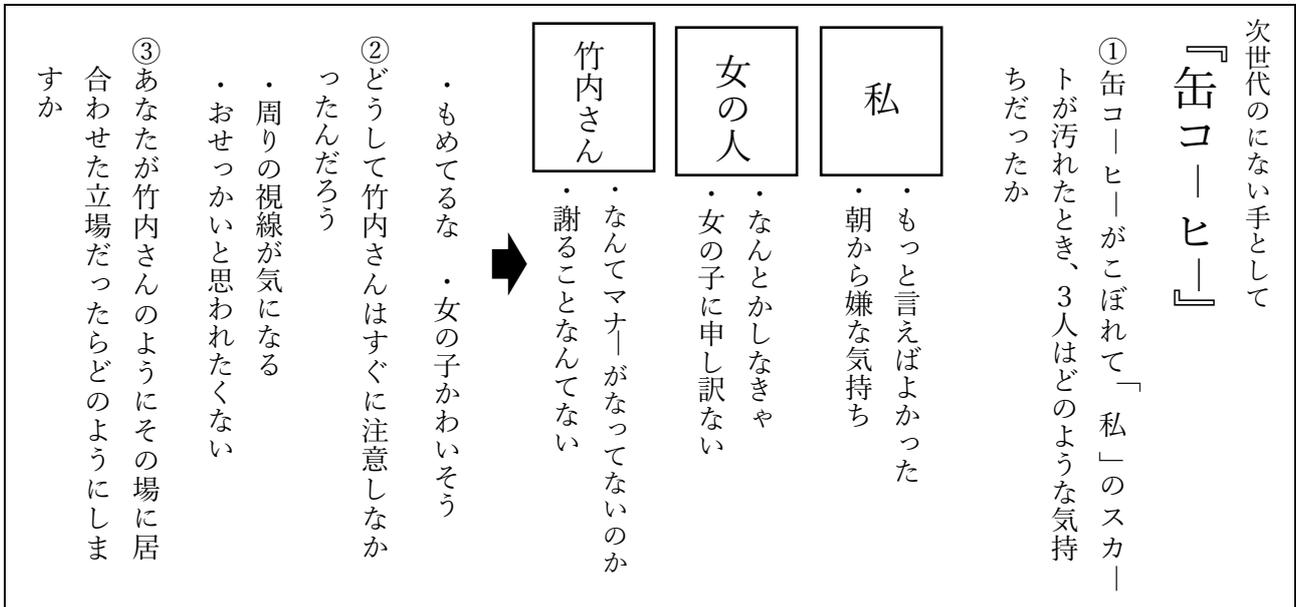
【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・役割演技等を通して、公共の場における望ましい行動や言動を考えている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

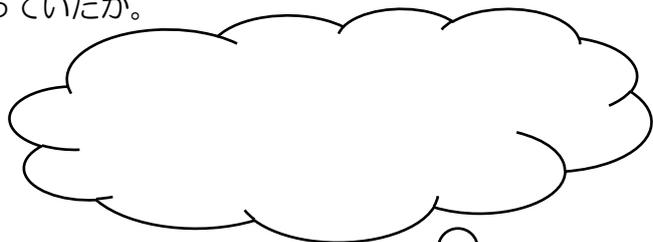
- ・互いに気持ちよく過ごせる社会にするにはどうしたらよいか、当事者意識をもって考えている。

7 板書計画

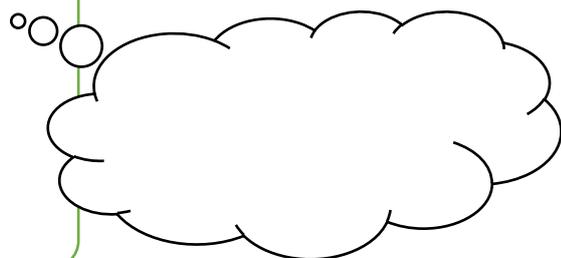
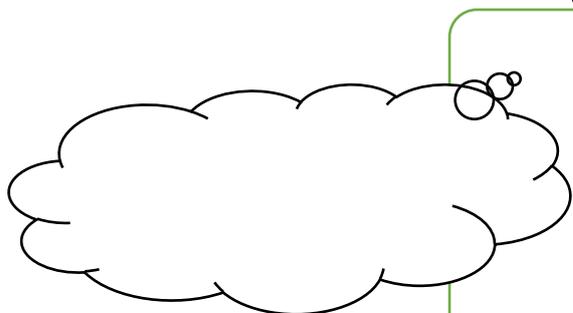


缶コーヒー 教科書 P96-99

①コーヒー缶が転がって、「私」のスカートとノートが汚れてしまったとき、それぞれどのような気持ちになっていたか。



乗客の一人として…



②どうして「竹内さん」はすぐに注意しなかったのだろう。

③あなたが「竹内さん」のように、その場に居合わせた立場だったら、どのようにしますか。

○今日の授業の振り返りをしましょう。「よりよい社会」を創っていくために、あなたはどう行動していきますか。

振り返ってみよう

1 教材について、興味をもって読めたか？	A B C D
2 自分の考えを伝えることができたか？	A B C D
3 友達の考えを聞くことができたか？	A B C D
4 授業の内容について、深く考えることができたか？	A B C D

A：意欲的にできた B：できた C：あまりできなかった D：できなかった

人物	セリフ
女の子	「あのお、落ちるといけませんから、缶を手で持っただけませんか。」
女性	「あらっ、落ちてしまったわ。ごめんなさい…。」 「すみません、よごしちゃって、ごめんなさいね。電車が急ブレーキをかけるから、いけないのよ…。全く…、しょうがないわね…。」
女の子	「そうですね。それに私をもっと早く足を引っ込めればよかったです。」
女性	「すみませんでした…」
竹内さん	「あんた、しっかりしなさいよ。なんでもっと強く言わなかったのよ。いらいらしちゃったわよ。」